イベントレポート 『2009　K耐久東海シリーズ　第4戦』

開催日　2009 年 10 月 18 日（日）　9:30 決勝スタート
決勝時間　：3 時間
天候　　晴れ
最高気温　22.7℃（12 時）
場所　　スパ西浦モーターパーク
エントリー台数　39 台

2009 年 10 月 18 日（日）愛知県蒲郡市のスパ西浦モーターパークにおいて、2009Ｋ耐久／ＧＴ耐久東海シリーズ第4戦が行われ、過去最大となる 39 台が熱い戦いを繰り広げた。

前日夜まで雨が続き天候が心配されたが、当日は見事な秋晴れとなった。過ごしやすい気温も相まって、絶好のレース日和となった。

シリーズは全 5 戦となっているが、ラストの第 5 戦は上位成績チームから順に参加権が得られる選抜戦。選抜戦出場の権利を懸けても熱い戦いが繰り広げられた。

尚、この日は今シーズン初めて予選が2組に分けて行われた。このため各組の予選時間はわずか8分ずつ。クリアラップは取りやすい状況ながら、タイヤが温まった後の2～3周で勝負が決められるかが大きなポイント。各チームのエースドライバーたちが好ポジションの獲得を懸け、アタックに臨んだ。

■　ＫＮＣクラス（軽ＮＡのクローズドクラス）

開幕戦優勝の　No.126「アンティスネコマルトゥデイ」が久々にエントリーしてきたが、大会直前のマシントラブルにより　KNO　クラスにマシンチェンジ。当日は 11 台での争いとなった。

■　予選

1’07.324 をマークしての予選 1 位は、シリーズポイントでも 1 位に付ける No.10「ぽんこつトゥデイ」。しかしこのチームはシリーズ 1 位ながらここまで優勝が一度も無い。今日こそは無冠の称号を返上できるか！？
2 番手は No.4「ロワードモーショントゥデイ 6 号」で 1’07.916 をマーク。毎回安定した速さを見せるものの、今シーズンはまだ表彰台に登っていない。今日こそは表彰台をＧＥＴできるのか。
3 番手には前回 3 位となった No.38「デモリッションエグゼトゥデイ」が 1’08.569 のタイムで入る。以下 4 位 No.36「ＪＫレーシングユーロートゥデイ」、5 位 No.7「ＪＫあんじょうトゥデイ」、6 位に No.97「マッハ滝浪ＴＳＲトゥデイ」と続いた。

■　序盤

序盤 60 分経過時点は、ほとんどのチームが 1 回目の義務ピットインを消化したタイミング。60 分以上ピットインを引っ張ったチームは一時的にポジションが上がるが、最終的には 3 度の義務ピットインを行わないといけないため、トータ

ルでは義務ピット停止回数は並ぶことになる。
そんな背景はあるものの、60 分を経過した時点のトップは予選 1 位からスタートした No.10「ぽんこつトゥデイ」で 37 周を周回。
続く 2 位は 35Lap で No.38「デモリッションエグゼトゥデイ」が続く。3 位と 4 位は 35 周の同一ラップで、No.97「マッハ滝浪ＴＳＲトゥデイ」、No.77「ＪＫガチャピントゥデイ」と続く。
また 5 位と 6 位も同一ラップの接戦で、No.48「ＳＨＩＮＷＡサトー建材ＢＥＡＴ」、No.100「ＨＡＣもらいものビート」と続く。
と、この時点での 4～6 位は予選 7 位以下からの躍進が目立つ。

■　終盤
レースが 3 分の 2 を経過した 120 分時点でも、No.10「ぽんこつトゥデイ」が 1 位の座を守り続ける。周回は 82LAP を記録。
1 周遅れで追いかける 2 位は No.36「ＪＫレーシングユーロートゥデイ」。前回優勝のチームが終盤に力を見せ付けて浮上してくる。
続く 3 位は 79 周の No.97「マッハ滝浪ＴＳＲトゥデイ」。さらに 1 周遅れの 4 位と 5 位には、No.38「デモリッションエグゼトゥデイ」と No.77「ＪＫガチャピントゥデイ」が続く。
さらに 1 周の僅差で、6 位 No.48「ＳＨＩＮＷＡサトー建材ＢＥＡＴ」と、7 位 No.100「ＨＡＣもらいものビート」が続く。
1,2 位が頭一つリードした感はあるが、まだまだ 3 位以下のチームも僅差に付けており、最後まで順位が読めない展開に･･。

■　最終結果
激戦のＫＮＣクラスを制したのは、No.10「ぽんこつトゥデイ」。109 周をラップして総合でも 10 位の見事な成績。悲願の今シーズン初優勝を飾り、シリーズ優勝に向けて大きなポイントを追加した。
2 位は 1 位と同一周回となる 109 周を走りきるも、あと一歩届かなかった No.36「ＪＫレーシングトゥデイ」が入った。シリーズポイントでも 2 位をキープし、最終戦に望みを繋いだ。
3 位には No.38「デモリッションエグゼトゥデイ」が入るが、3 位も 1 位から 1 周遅れという接戦であった。
4 位争いもさらに熾烈で、4 位から 6 位までが 105 周の同一ラップという結果。そんな 4 位争いを制したのは、No.97「マッハ滝浪ＴＳＲトゥデイ」。続く 5 位はわずか 9 秒の差で No.77「ＪＫガチャピントゥデイ」が入る。
6 位にはさらに 11 秒遅れで No.48「ＳＨＩＮＷＡサトー建材ＢＥＡＴ」が続いた。

ＫんＣクラスは第 1 戦から第 4 戦までの優勝チームが毎回変わるという激戦の展開。そんな中、常に上位をキープしたいた No.10「ぽんこつトゥデイ」がシリーズポイント争いでは頭一つリード。
しかし追いかけるシリーズ 2 位と 3 位の No.36「ＪＫレーシングユーロートゥデイ」と No.38「デモリッションエグゼトゥデイ」は、昨シーズンのシリーズ優勝と 2 位の実力チームで大きく崩れる可能性は低いため、最終戦のチェッカーが振られるまでは、シリーズの行方はわからない。

■ ＫＮＯクラス（軽ＮＡのオープンクラス）

2 連勝だった No.126「アンティスネコマルトゥデイ」が、今回はＫＮＣクラスにエントリーし、ＫＮＯクラスの各チームが喜んだのも束の間・・。大会直前にＫＮＣクラス用のマシンにトラブルが発生し、結局車両変更申請がありＫＮＯクラスへのエントリーとなった。これによりプログラム記載よりも 1 台多い 9 台での争いとなった。

■ 予選

突然のクラスチェンジで準備不足が懸念された No.126「アンティスネコマルトゥデイ」であったが、蓋を開けてみれば 1'02.886 の総合ポールともなるタイムで予選 1 位を獲得。

続く 2 位の No.223「ネライウチリンダトゥデイ」も、1'05.316 のタイムながら総合 2 位となる堂々たるポジション。ＫＮＯクラスの 2 台がグリッド最前列を飾る結果となった。

予選 3 位は前回初参加ながら 2 位でフィニッシュした No.296「小山輪業ＫＲ－Ｏトゥデイ」で 1'07.490 をマーク。

以下、4 位 No.53「MR200 会Ｗｅｓｔ トゥデイ」、5 位 No.57「伊藤家レーシングチームトゥデイ」、6 位 No.34「ＹＴＳ ＵＲＧトゥデイ」と続く。

■ 序盤

決勝スタート直後から、予選 1 位の No.126「アンティスネコマルトゥデイ」と、2 位の No.223「ネライウチリンダトゥデイ」が激しいトップ争いを展開し、ギャラリーを喜ばせる。

60 分を経過した時点では、No.57「伊藤家レーシングチームトゥデイ」が 1 回目のピットインを引っ張り、40Lap で 1 位に躍り出る。その他のチームは 1 回目のピットインを済ませており、No.126「アンティスネコマルトゥデイ」が 2 位に付けて 38Lap を周回。1 周遅れの 37Lap で No.296「小山輪業ＫＲ－Ｏトゥデイ」、No.223「ネライウチリンダトゥデイ」、No.53「MR200 会Ｗｅｓｔ トゥデイ」がピタリと追走する。

以下 6 位には 35Lap の No.104「遠州商会Ｔｏｄａｙ－Ｒ」が浮上し、7 位、8 位には 34Lap の No.12「サイドカーショップ東海アルト」、No.211「白須賀会トゥデイ」と続く。

■ 終盤

120 分経過時点では No.126「アンティスネコマルトゥデイ」が 87Lap を走行し、総合でも 1 位に付ける。

追う 2 位には No.223「ネライウチリンダトゥデイ」が 84Lap で付けるが、トップを狙うにはやや厳しい周回差か。

そこから 1Lap 遅れの 3 位には No.57「伊藤家レーシングチームトゥデイ」が、さらに 1Lap 遅れの 4 位と 5 位には、No.296「小山輪業ＫＲ－Ｏトゥデイ」、No.53「MR200 会Ｗｅｓｔ トゥデイ」と続き、6 位の No.34「ＹＴＳ ＵＲＧトゥデイ」も 5 位から 1 周遅れで追いかける僅差の展開。

■ 最終結果

予選タイムの実力そのままに、No.126「アンティスネコマルトゥデイ」が総合でも 1 位となる 116 周の記録で、見事なポールトゥーウインを飾った。

2 位から 4 位までは 110 周の同一ラップという結果。そんな 2 位争いを制したのは No.296「小山輪業ＫＲ－Ｏトゥデイ」

で、2 戦連続の 2 位獲得となった。
2 位からわずか 4 秒差の悔しい 3 位は No.223「ネライウチリンダトゥデイ」。また 4 位の No.53「MR200 会West トゥデイ」も 3 位からわずか 23 秒の差であった。
また 5 位と 6 位も 105 周の同一ラップという結果。5 位には No.34「YTS URGトゥデイ」が入り、6 位の No.57「伊藤家レーシングチームトゥデイ」は 5 位とは 9 秒差であった。
これで No.126「アンティスネコマルトゥデイ」は第 2 戦から 3 連勝。最終戦で 6 位以上を獲得すれば自力でシリーズ優勝が確定する。
またシリーズ 2 位の No.223「ネライウチリンダトゥデイ」までがシリーズ優勝の可能性を残しているが、最終戦で優勝し、No.126 が 7 位以下で終わらない限りは逆転にはならないため、厳しい条件であることは確か。
以下シリーズ 3 位、4 位争いと、5〜8 位争いも僅差となっているため、最終戦にエントリーできるかどうかで最終順位が大きく変わって来そうである。

■ KTCクラス（軽ターボのクローズドクラス）
今回 8 台のエントリーとなったこのクラス。毎回表彰台の顔ぶれがシャッフルされるが、これは実力が拮抗している証拠。それを象徴するように、第 3 戦終了時点でのシリーズトップ争いを No.14「ガレージイシヤマレーシング」、No.78「ガレージ凪屋」、No.210「auto produce ZEST」の 3 チームで繰り広げている。果たして混戦を抜け出すのはどのチームなのか？

■ 予選
予想されてはいたものの、予選から早くも混戦となる。予選 1 番手は No.78「ガレージ凪屋チャレンジアルト」でタイムは 1’05.891。総合でも 3 番手となる好ポジションに付ける。
続く予選 2 位から 4 位までの 3 台は、0.3 秒の中に入る大接戦。その争いのトップとなる 2 番手に入ったのは No.210「ZEST MSC豊橋 アルト」で、タイムは 1‘06.503 を記録。3 番手は No.14「ガレージイシヤマアルトバン」でタイムは 1’06.651。4 番手には No.27「タナカオートレーシングアルト」が 1'06.803 で続く。
以下 5 位に No.15「ガレージイシヤマTTSセルボ」、6 位に No.121「ZEST・Lubrossセルボ」と続いた。

■ 序盤
序盤は、ほぼ予選順位のままにレースが進行。60 分経過時点では、予選トップだった No.78「ガレージ凪屋チャレンジアルト」を先頭に、2 位 No.14「ガレージイシヤマアルトバン」、3 位 No.27「タナカオートレーシングアルト」までが 37 周の同一ラップで接近戦を繰り広げる。
続く 4,5,6 位もわずか 1 周遅れの 36 周で同一周回での争い。4 位 No.210「ZEST MSC豊橋 アルト」、5 位 No.15「ガレージイシヤマTTSセルボ」、6 位 No.112「白須賀会ワークス」と続く。
また 7 位の No.121「ZEST・Lubrossセルボ」、8 位の No.88「遠州商会＆花りん号ミラ」も、35Lap と、このクラス全車が接近した状態。

■ 終盤
レースも 120 分を経過すると、さすがにじわりと周回差が付いてくる。この時間

帯での 1 位は引き続き No.78「ガレージ凪屋チャレンジアルト」で 85 周をLapする。
2 番手には No.27「タナカオートレーシングアルト」が 1 周遅れで追いかける。さらに 1 周差の 3 位には、No.14「ガレージイシヤマアルトバン」が付け、優勝争いは上位 3 チームに絞られてくる。
続く 4 位は No.15「ガレージイシヤマTTSセルボ」で 82Lap を走行。以下、80Lap の 5 位に No.121「ZEST・Lubrossセルボ」、そこから 1 周遅れの 6 位と 7 位は No.112「白須賀会ワークス」、No.210「ZEST MSC豊橋 アルト」というオーダー。

■ 最終結果
上位 3 チームが拮抗したレース展開を見せたが、そんな中でも No.78「ガレージ凪屋チャレンジアルト」が安定した速さを見せて 113 周を走りきり、見事なポールトゥーウィンで勝利を飾った。
続く 2 位と 3 位は同一の 112Lap で、その差はわずかに 3 秒。この接戦をものにしたのは No.27「タナカオートレーシングアルト」。前回も良い走りを見せながら終了直前にリタイヤとなったが、見事にリベンジを果たした。
惜しくも 3 位となったのは No.14「ガレージイシヤマアルトバン」。今回の結果でシリーズ 1 位の座を No.78 に譲る形になってしまった。
4 位には 109 周の No.210「ZEST MSC豊橋 アルト」が入り、シリーズ優勝への望みをつないだ。
以下 5 位から 7 位は 107 周の同一ラップ。5 位に No.15「ガレージイシヤマTTSセルボ」、6 位に No.121「ZEST・Lubrossセルボ」、7 位に No.88「遠州商会＆花りん号ミラ」と続いた。

今回の結果を受けてシリーズ優勝の可能性が残っているのは No.78「ガレージ凪屋チャレンジアルト」、No.14「ガレージイシヤマアルトバン」、No.210「ZEST MSC豊橋 アルト」の 3 チームとなった。
ただし現時点で 1 位の No.78 は、最終戦で 2 位以上となればシリーズ優勝が確定するため優勢な状況にはある。
しかし最終戦は 6 時間の長丁場。どんなドラマが待ち受けているか、最終戦のチェッカーが振られるまでわからない。

■ KTOクラス（軽ターボのオープンクラス）
今回 7 台のエントリーとなったこのクラス。第 3 戦までは表彰台に乗るチームの顔ぶれが毎回同じと、シリーズトップは 3 強の争いとなっている。今回 1 位のポイントを獲得しシリーズポイント争いを優位に進められるのはどのチームになるのか。また、この 3 強の一角を崩せるチームが出てくるのか。

■ 予選
予選 1 番手となったのは No.59「ナルミファクトリーアルト」でタイムは 1'06.170。3 強の一角ながら 2 位が 2 回に 3 位が 1 回とまだ優勝がないが、今回は絶好のポジションを獲得。
予選 2 位は No.55「水野自動車ワークス」でタイムは 1'07.445 をマーク。今年は第 3 戦から出場となり大きなポイントが無いものの、昨年は常に上位を争

った力のあるチームである。
予選3位はNo.8「チームグローバルカプチーノ」でタイムは1'07.719。常に安定した速さを見せるこのチーム、トップを狙うには十分なポジションに付ける。
4番手は1'07.951でNo.42「Legendカプチーノ」が入る。毎回表彰台まであと一歩届かない戦いが続いているが、今回は悲願の初表彰台となるか。
シリーズ1位を走るNo.1「DXLメビウスセルボモード」は5番手からのスタート。毎回フロントローに付けるこのチーム、今日はどこか調子が悪いのか‥？
以下6位No.111「行革アルト2号機」、7位No.29「フェルナンドヴィヴィオ」と続く。

■ 序盤
60分が経過した時点では、37LapのNo.8「チームグローバルカプチーノ」と、No.59「ナルミファクトリーアルト」が同一周回の14秒差でトップ争い。
次いで36Lapで No.55「水野自動車ワークス」と No.42「Legendカプチーノ」の2台が18秒の差で3番手を争う。
5位には35周の No.29「フェルナンドヴィヴィオ」が続き、まだまだトップ争いに食い下がる。
6位は No.1「DXLメビウスセルボモード」で、やはり本調子とは言えない走りが続く。

■ 終盤
レースも2時間を経過すると、少しずつ周回差が出てくるものであるが、この日のKTOクラスはなかなか差が開かない。
83Lap の No.8「チームグローバルカプチーノ」が依然トップを走るが、2位のNo.42「Legendカプチーノ」はわずか1周差。そこから1周遅れで3位のNo.55「水野自動車ワークス」が追いかける。
さらに1周遅れの80Lapで、No.29「フェルナンドヴィヴィオ」とNo.59「ナルミファクトリーアルト」が追う展開。
しかしピット回数の差もあるため、一概には優位性がわからない‥。

■ 最終結果
最後の義務ピットを追えた後は、No.59「ナルミファクトリーアルト」と No.8「チームグローバルカプチーノ」が同一ラップでトップ争いを繰り広げたが、最終的にトップでチェッカーを受けたのは No.59「ナルミファクトリーアルト」であった。
112周を走りきり、念願の初優勝を飾った。
惜しくも2位となったのは No.8「チームグローバルカプチーノ」。トップを捉えていたものの、あと一歩届かず。
3位と4位も同一周回での争い。この争いを制したのはNo.42「Legendカプチーノ」で、念願の初表彰台を獲得した。
3位から約40秒差での4位にはNo.55「水野自動車ワークスが入った。
5位となったのはNo.1「DXLメビウスセルボモード」で最後まで本調子に戻らないままレースを終えた。
以下6位に107周のNo.29「フェルナンドヴィヴィオ」、7位にNo.111「行革アルト2号機」と続いた。
前戦終了時にシリーズ1位に付けていたNo.1「DXLメビウスセルボモード」が5位に終わったことで、シリーズ優勝の行方は最終戦までわからなくなった。

第 4 戦終了時点で 1 位 No.1「ＤＸＬメビウスセルボモード」、2 位 No.59「ナルミファクトリーアルト」、3 位 No.8「チームグローバルカプチーノ」というオーダーとなったが、1 位から 3 位までの特典差がわずか 4 点であるため、最終戦で優勝したチームがシリーズ優勝となる。
果たして有終の美を飾ることが出来るのはどのチームか！？

■　KWTクラス（軽のワゴントラッククラス）

今回、過去最多の 4 台のエントリーとなったKWTクラス。アイが 2 台、ワゴンRが 1 台、アクティーバンが 1 台と、車種もバラエティーに富んでいる。
フル参戦で圧倒的な速さを誇る No.2「クリエティー山田印ワキアイアイ」に迫るチームは出てくるのか。

■　予選

予選 1 位となったのは、何と初参加の No.808「俺の嫁のワゴンR」でタイムは 1'14.502 を記録。このマシン痛車のカラーリングが施され、見た目の注目度も No.1。
2 位には 1'15.963 で No.2「クリエティー山田印ワキアイアイ」が 1 つ後ろのグリッドからしっかりとマーク。
3 位は No.95「ＳＭＫレーシングアイ EVO Ⅰ」で 1'17.717 を記録。これまた 2 位の真後ろのグリッドに付ける。
4 位には No.414「ＹＵＥＮ‘Ｓ　ＡＣＴＹ」が入るが 1'30.909 と 3 位からは少し水を開けられる形となる。

■　序盤

60 分経過時点でのトップは No.2「クリエティー山田印ワキアイアイ」で 33Lap を周回。しかし 2 位の No.808「俺の嫁のワゴンR」も同一周回でその差はわずか 30 秒と、ほぼ互角の争いを見せる。
3 位は No.95「ＳＭＫレーシングアイ EVO Ⅰ」で 30 周をラップ。4 位の No.414「ＹＵＥＮ‘Ｓ　ＡＣＴＹ」も 29 周と健闘を見せる。

■　終盤

2 時間経過時点でもなお、No.2「クリエティー山田印ワキアイアイ」が 1 位の座を守る。周回数は 75 周を記録。
2 番手は No.808「俺の嫁のワゴンR」で 70 周となるが、ピット回数の違いがあり一概には差は測れないが、No.2 に少しのアドバンテージがあることは確か。
3 位には No.95「ＳＭＫレーシングアイ EVO Ⅰ」が 68 周で続く。4 位の No.414「ＹＵＥＮ‘Ｓ　ＡＣＴＹ」は 60 周とトップを狙うには厳しい周回差となる。

■　最終結果

このクラス、トップでチェッカーを受けたのは No.2「クリエティー山田印ワキアイアイ」で 101 周を走りきった。予選こそ 2 番手だったものの、毎戦参加の貫禄を見せ、終始トップの座を守りきった。

2 位には 99Lap で No.808「俺の嫁のワゴンR」が入った。初参加ながらシリーズ 1 位の No.2「クリエティー山田印ワキアイアイ」を脅かす速さの走りは見事であった。
3 位は No.95「ＳＭＫレーシングアイ EVO Ⅰ」。こちらも初参加ながら 96 周の好記録を残し、今後の活躍が楽しみである。
4 位は No.414「ＹＵＥＮ‘Ｓ　ＡＣＴＹ」で 80 周の記録。ここは大学自動車部のチームでありまだまだ伸び代があるので、今後のさらなる活躍を期待したい。
第 4 戦を終えてのシリーズポイントは、No.2「クリエティー山田印ワキアイアイ」が 75 ポイントとなり、これによってシリーズ優勝を早々と決定した。
ＫＷＴクラスの選抜戦の参加枠はわずか１台。No.2「クリエティー山田印ワキアイアイ」が参戦すれば他クラスをどれだけ食えるのか注目してみたい。